



SGN News



第47号 2026年3月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

連携推進事業 グリーン経済フォーラム2025

モノの命をのばす社会へ ～サーキュラーエコノミーが切り拓く道

【会場(フェリエ南草津 5階 大会議室)とオンライン(ZOOM使用)の併催]開催報告

◆開催日:2025年11月27日(木)
◆参加者:約60名

■ 開会挨拶	秋山 道雄 (SGN会長)
■ 基調講演	「『サーキュラーエコノミーを創る』～地球の限界を超えないビジネスと暮らし～」 清水 きよみ氏 (公益財団法人日本生産性本部 SDGs推進室長)
■ 事例紹介	「SDGs目標12『つくる責任とつかう責任』をつなげばごみはなくなる。」 ～生産者は流通業者と連携し広域認定を取得することで社会貢献できる～」 小木曾 順務氏 (株式会社おぎぞ 会長/循環プロバイダー)
■ 質疑応答・ディスカッション	コーディネーター: 宮永 健太郎氏 (京都産業大学 経営学部 教授/SGN運営委員)



清水 きよみ氏 小木曾 順務氏 宮永 健太郎氏



ディスカッションの様子

2024年の世界平均気温が、産業革命前の水準と比べて1.55度上回り、パリ協定で気温上昇を抑える目標とされる「1.5度」水準を単年で初めて超えました。気候変動、生物多様性の損失、資源枯渇、廃棄物の増加——これらの課題に直面する現代社会において、サーキュラーエコノミー（循環経済、以下CE）への移行が加速し、市場規模も拡大しています。

CEの推進は技術革新やビジネス創出、競争力向上の契機となりうる一方で、環境負荷の低減と経済価値の両立など乗り越えなければならない壁も少なからずあります。また、トランプ政権の脱・環境政策が、日本企業の取り組みにどのような影響を及ぼすのかも注目されます。

CEの基本的な考え方からビジネスへの応用、その推進によってもたらされる新たな企業価値について、中小企業が取り組む際のヒントやポイントを捉え、持続可能な未来を考えることを目的として本フォーラムを開催しました。

基調講演「『サーキュラーエコノミーを創る』～地球の限界を超えないビジネスと暮らし～」清水 きよみ氏

日本のCEの認知度・理解度は世界的に見ても低いということですが、グローバルな経済社会の変化を踏まえつつ、「プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）を超えない活動の維持」と「ウェルビーイングの実現」を目指さなければならないと示していただきました。線形経済（リニアエコノミー）から循環経済（サーキュラーエコノミー）へ、つまりは「なげやりな経済」から「よりよい経済」への転換が必要とのことでした。

印象に残ったのは「CEはブルーオーシャン」という言葉で、中小企業が今すぐ取り組むメリットをいくつも提示していただき、CEは「売り手よし・買い手よし・世間よし・作り手よし・地球よし・未来よし」の“六方よし”であると結ばれました。

事例紹介「SDGs目標12『つくる責任とつかう責任』をつなげばごみはなくなる。」

～生産者は流通業者と連携し広域認定を取得することで社会貢献できる～ 小木曾 順務氏

まず、アルミナを使用したリサイクル強化磁器食器についてご紹介いただきました。高強度で破損が少なくごみ減量につながり、2013年には「広域認定商品」として登録されることとなった経緯や徹底的に調査をすることの重要性を教えてくださいました。地域産業を継続させる観点と社会課題解決のため、まずは高価な素材からリサイクルしてビジネスを生み出し、環境貢献に繋げることの大切さを熱く語られました。また海ごみ問題について、エネルギーの危機管理・カーボンニュートラル構想に点滴パックを組み込むことについても提案されました。

講演後の「質疑応答・パネルディスカッション」では、京都産業大学 経営学部 教授でSGN運営委員である宮永 健太郎氏のコーディネートで議論が進みました。CEの現状や見通しについて、何のためにやるのか、EUの目指すCEと日本との考え方の違いについて、一般消費者に認知度を上げていくにはどういったことを求められるのか、廃棄物の回収をなぜ広域でやっていく必要があるのか、滋賀県でも有効なことはあるのか、といった質問が出され、熱心に議論いただきました。

INDEX



- グリーン経済フォーラム2025 1
- 特集 2025年度 グリーン購入+エシカルキャンペーン .. 2
- 11月7日 びわ湖放送「金曜オモロしが」に出演しました .. 3
- イベント会場でも活躍！二種類の新啓発資材が登場 .. 3
- 活動レポート1 4
- 活動レポート2 5

- SGN会員でつなぐリレートーク 株式会社ロハス長浜 .. 6
- 今さら聞けない用語集 6
- 潮流「『琵琶湖はほんにすごい！琵琶湖八珍のすずめ』 7
- ご寄付をいただいた団体・個人 7
- 会員発エコ商品情報 8
- SGNロゴマーク・キャラクターの活用 8

特集

2025年度 グリーン購入 +エシカルキャンペーン

実践促進+暮らし方普及

エシカル消費を含めた持続可能な滋賀県発の新しい消費行動を日々の生活に定着させる目的で2019年に開始した「グリーン購入+エシカルキャンペーン」。7回目となった2025年度も、県内小売店、会員事業者、県内市町のご協力のもと、ポスターやPOPの掲示、店内放送での呼びかけのほか、広報誌、ホームページ等による発信により、積極的な啓発活動を行いました。今年は、一般消費者に取り組み内容がより伝わりやすく、実践していただきやすくなることを目指し、《宣言STEP2》を三項目に厳選しました。

また、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」へも出展し、キャンペーンを展開したことで、県外の消費者にも取り組みを広げることができました。

《宣言STEP0》

- ① 買う前に、本当に必要かどうか考えます。

《宣言STEP1》

- ① マイバッグ・マイボトルを持って出かけます。
- ② 包装の少ないものや、つめかえ品を選びます。
- ③ 滋賀県産(地元産)の商品を選びます。
- ④ 「フェアトレード商品」を選びます。
- ⑤ 「買い物メモ」を持っていきます。
- ⑥ 近い所は、車を使わずに、自転車や徒歩でいきます。

《宣言STEP2》

- ① 「しがプラチャレンジの日(毎月1日)」に参加します。
- ② びわ湖を守る「MLGs」に参加します。
- ③ 「サステナブルファッション」を心がけます。



●景品協賛いただいた会員の皆さま (50音順)

NPO法人愛のまちエコ倶楽部、グリーン近江農業協同組合、株式会社国華荘 びわ湖花街道、滋賀県地域女性団体連合会、滋賀県立琵琶湖博物館、琵琶湖汽船株式会社、株式会社平和堂、株式会社ロハス長浜

ご協力ありがとうございました

「グリーン購入+エシカルキャンペーン・イベント」

《草津会場》

10月12日 エコライフフェア草津



たび丸も
ブースにきて
くれました

12月13日 草津市地球冷やしたい推進フェア



グリーン購入
クイズに
挑戦中の親子



《近江八幡会場》

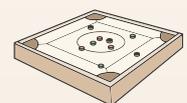
11月22日 JAグリーン近江ファーマーズマーケット「きてか〜な」
店頭啓発



寒さのなか、
参加宣言して
いただきました

《大津会場》

12月14日 子どもまちづくりフェス



カロムを
楽しむ親子

《彦根会場》



第79回国民スポーツ大会
9/28/10/3~10/8

第24回全国障害者スポーツ大会
10/25~10/27

国スポ
出展ブースにて、
新資材活用



ブース訪問者に
SGNの
歴史を説明



11月7日 びわ湖放送
「金曜オモロしが」に出演しました

「グリーン購入+エシカルキャンペーン」の広報活動の一環で、11月7日、びわ湖放送の「金曜オモロしが」（毎週金曜 19:00~放送）に事務局メンバーが出演。「みんな集まれ! 30秒PRタイム」でキャンペーンの概要説明と参加呼びかけを行いました。



高島市出身の番組MC、桂三度さん達と▶



イベント会場でも活躍! 二種類の新啓発資材が登場

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」で全国の皆さんに「グリーン購入+エシカルキャンペーン」を知っていただくにあたり、今や世界的にも取り組みがみられ、日本の法律にまでなった「グリーン購入」が、実は滋賀県発であることを、わかりやすく示したタペストリーを作成しました。国スポ障スポ会場に限らず、様々なイベント会場でも子どもたちの目を惹くよう、エコペンファミリーのイラストを活用しています。

◀知ってましたか? 「グリーン購入」は滋賀生まれ!
(タペストリータイプ)



1994年9月の「滋賀県環境に優しい物品の購入基本指針」の策定に始まり、2013年4月の「滋賀GPNが一般社団法人として法人化」まで盛り込まれている既存パネル「滋賀県グリーン購入の取り組みの歴史」(2枚組)の続きを作成。2013年5月以降のSGNと滋賀県、国や世界の環境をめぐる動きがまとめられた1枚が追加され、新たに3枚組の資材として生まれ変わりました。ぜひご活用ください。

SGNの歴史と滋賀県・国・世界の環境をめぐる動き▶
2013年~2025年 (パネルタイプ)



活動レポート

研究会活動報告 連携推進

◆生物多様性と環境・CSR研究会

- ・野外セミナー「滋賀から始める中小企業の環境保全」

2025年6月10日(火)

- 参加者:22名 ●会場:積水樹脂株式会社 滋賀工場 竜王製造所

まずは事例発表として、株式会社IHI吉田公亮氏に「東近江市と連携した小さな自然再生の取り組み」と題して、社内有志数名で愛知川中流域での「小さな自然再生」活動をされているお話をいただきました。

積水樹脂株式会社 稲垣和美氏は「積水樹脂における生物多様性保全の取り組み」と題して、「滋賀工場」「物流センター」の2ヵ所において「自然共生サイト」認定を受けられたこと、近隣の会社と「生物多様性びわ湖ネットワーク」を立ち上げ、トンボ100大作戦に何年も取り組んでいるお話をいただきました。

その後小雨になったことから、参加者全員で長靴に履き替えて積水樹脂滋賀工場内「自然共生サイト」認定エリアの見学を行いました。

2023年10月に認定を受けられたエリアは「貧栄養湿地」(水や土壌中に窒素やリンなどの栄養分が極めて少ない湿地)が多く見られますが、生態系が独特でかなり特殊な植物が生育しています。トウカイコモウセンゴケや体長わずか2cmの日本で一番小さなトンボ「ハッチョウトンボ」も多く見られました。

意見交換会では、実際に自然共生サイトへの登録を目指す企業の方からの質問や、「まず何から始めたのか、どうやって会社の上層部に理解をいただいたのか。」といった質問が相次ぎ、とても盛り上がりました。

- ・毎月配信のSGNメルマガ（[SGN◆NEWS]）に研究会メンバー有志でコラム（「生物多様性がひろく未来地図」）連載開始

◆エコ交通研究会

- ・協力事業 まちづくりと交通の広場しが まちと交通の未来づくりフォーラム

第1回フォーラム(全大会)「住み続けられるまちと交通」 2025年8月23日(土)

- 参加者:103名 ●会場:草津市立市民交流プラザ 大会議室(フェリエ南草津5階)

始めに、宇都宮浄人 やさしい交通しが代表(関西大学教授)より、これまでの背景や経緯の説明があり、車を無くすことはできないが滋賀県も既に頑張っており「民」も仲間を増やして行動しよう、と呼びかけられました。

次に地域エコノミストの藻谷浩介氏が「住み続けられる街を支える交通の話」と題しお話されました。日本では「赤字だからこの路線は廃止」という話になりがちだけれど、家庭用乗用車が黒字かと言えば疑問であり、車の生涯維持費は3千万かかるそう。そもそも交通にはお金がかかるものだが、日本の公共交通では黒字赤字の線引きが適切でなく、超過密な大都市だけが黒字である、滋賀県くらいの規模が最も住みやすいはず。今後若者が減り、高齢者が増えるばかりなので運転をやめても幸せに暮らせる環境が必要である、と締めくくられました。

次に、滋賀地域交通ワークショップコーディネータである佐々木和之氏から「滋賀県の交通問題 地域交通ワークショップから」と題してご報告いただきました。どんな移動を担保し、そのためにどんな交通軸が必要か、具体的に話し合う必要がある、住民だけでなく、交通事業者や行政を含め、全当事者同士で話し合うべきである、行政が抵抗しているように見えがちだが、実は市民同士の対立であることもあるとのこと。エリア単位だけでなく、県自体で同じ目標に向かうため「意見の重なり」を見つけていくことが必要だとおっしゃっていました。

その後は、モビリティジャーナリストの楠田悦子さん、立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授の塩見康博さんが加わり、トークライブ「ずっと住みたい幸せのまちを目指して」で議論が行われました。100名を超える参加者でとても盛況でした。

「単純な二項対立」になることを避けるため（「民」同士がきちんと話し合える機会創出など）にも、このようなネットワーク、フォーラムの活動は重要だと感じました。



生物研セミナー 趣旨説明の様子



生物研野外セミナー
敷地内散策に見られた
トンボの一部



まちと交通の未来づくり
フォーラムの様子



活動レポート 2

「会員講師派遣事業」 2025年度 暮らし方普及

2025年度は以下の方々に2大学3講座へご出講いただきました。

- ・滋賀県立大学「環境マネジメント演習」(高橋卓也教授・SGN副会長)
今年度から始まった「環境マネジメント演習」は、講師の講義の後、企業等の環境経営に例をとった演習課題にグループで数週間かけて取り組み、最後講師の前で成果発表会を行うユニークで実践的な講座です。

株式会社沢田商店 沢田 昌宏氏

- ・滋賀県立大学「環境経営学」(高橋卓也教授・SGN副会長)

講師の話の後、学生に対して「お題」が出され、グループ討論の後発表。その発表内容に対してゲスト講師から講評をいただきます。学生は苦戦しながらもお題に挑んでいました。

株式会社芝山タイヤ工業所 芝山 真一氏

株式会社シガウッド 中村 修三氏・高橋 文夫氏・山内 敏美氏・

小林 和秀氏・松本 満氏・川村 千歌氏

かたぎ古香園 片木 隆友氏

- ・京都産業大学「ソーシャル・ガバナンス論」(宮永健太郎教授・SGN運営委員)

講義の途中で講師がライブアンケートを取りながら授業を進めるため、学生からも自由な意見や質問が出ていました。

びわ湖放送株式会社 松本 圭司氏

株式会社ミタカグループホールディングス 三峰 教代氏・平山 風帆氏



県大講師派遣の様子
(11/19 シガウッド)



京産大講師派遣の様子
(1/16 ミタカグループホールディングス)

全て出講日程順に掲載
講師をお務めいただいた皆様、
ご協力ありがとうございました。

「自治体部会連携 買うならエコリレー」 2025年6月～2026年3月 暮らし方普及

県内自治体連携で「パネル展示(庁舎等での展示)」と「ブース展示(イベントにて展示)」にてグリーン購入を普及啓発する「びわ湖一周『買うならエコ!』リレー」。6月下旬からスタートし3月でゴール予定です。

- [2025年度 掲示パネル]
- ①グリーン購入ってな～んだ? ②めざせ!サーキュラーエコノミー
 - ③家庭でできる二酸化炭素を減らす方法を考えてみよう!
 - ④グリーン購入+エシカルをはじめよう ⑤フェアトレードってなあに?
 - ⑥旬の食材を選ぼう ⑦啓発リレーパネル



自治体買うならエコリレー
(東近江市)

「自治体のグリーン購入担当者連絡会議」 2025年8月21日(木) 実践促進

前半は環境省 大臣官房 環境経済課 課長補佐 中村文香氏に①グリーン購入法の概要 ②令和6年度の主な見直し ③グリーン購入の更なる発展についてご講義いただき、後半は各自治体におけるグリーン購入の取り組み(課題等)について意見交換を実施しました。担当者としてどう創意工夫をしながら取り組んでいくべきなのかが行政ならではの悩みについても会議の中で活発に情報交換されていました。(参加者:21名)



自治体連絡会議の様子

GPプラン滋賀(2025年度実績) 県受託事業 実践促進

滋賀県のグリーン入札制度で優先的取扱いの対象事業者となる「グリーン購入実践プラン滋賀登録制度(略称:GPプラン滋賀)」。動画配信の基礎研修会はいつでもご受講いただくことができ、グリーン購入の学び直しや新入社員研修にも役立ちます。

実践講座は前期3回、後期3回、前後期1回ずつオンライン併催をすることで利便性を高めています。CO₂ネットゼロ、生物多様性、サーキュラーエコノミー、滋賀県ナイスハート物品購入制度に関連しての福祉など今年も多岐に渡りました。多数の会員の方に講師もお務めいただき、本当にありがとうございました。2026年度も多彩な講師陣を予定しておりますのでご期待ください。



実践講座 前期2の様子

●2025年度講師をお務めいただいたSGN会員の皆さま

前期2 NPO法人愛のまちエコ倶楽部 事務局長 伊藤 真也氏

前期3 京都産業大学 経営学部 教授 宮永 健太郎氏(SGN事務局運営委員)

後期3 滋賀県 琵琶湖環境部 循環社会推進課

コクヨマーケティング株式会社 関西支社関西サプライ営業部 部長 高橋 伸年氏

Relay
Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

株式会社 叶 匠寿庵からのご紹介

株式会社ロハス長浜

統括マネージャー

小山 武士さん



株式会社ロハス長浜は、「地域資源を活かし、地域を活性化したい」という思いを持つ市民が集まり、2009年に設立された「まちづくり会社」です。現在、長浜市においてウツ



放置竹林の整備



スノーシュー体験



湖北地域の農産物を活用した特産品

ディパル余呉をはじめとする5つの指定管理施設を運営するとともに、行政や湖北地域の個人・団体・企業の方々と連携しながら、地域課題の解決に取り組んでいます。

特に、活動拠点のひとつである長浜市余呉町は森林面積が92%を占めるなど森林資源に恵まれている反面、少子高齢化の進行により農業や林業の担い手不足、放置竹林の増加といった課題を抱えています。こうした地域の実情を踏まえ、地域資源の利活用と環境保全を両立させる取り組みを進めています。

弊社が運営しているウツディパル余呉では、単に宿泊やレジャーの事業だけではなく、森林資源を活かした体験プログラムやエコツアーの企画や実施、竹林の整備と間伐した竹の活用のほか、フクロウやシジュウカラの巣箱づくりやへびにフォーカスしたプログラム、スノーシュー体験などを通して、子どもたちに生き物や自然に触れる機会を提供しています。

また、地域づくり協議会などと協働し、賤ヶ岳や余呉湖周辺の環境整備にも積極的に関わるとともに、湖北地域の農産物を活用した特産品の開発や販売にも力を入れています。和りんご・赤紫蘇・生姜などはそれぞれクラフトサイダーとして商品化し、市内の道の駅や宿泊施設などで販売しています。伝統野菜の尾上菜をはじめとする地域野菜は、乾燥加工によるドライベジタブルとして展開。ひと手間を加え、付加価値を高めることで耕作地の維持や生産の継続につなげるとともに、他企業と協力したエゴマの栽培・商品化を通して、耕作放棄地の減少にも努めています。

今後も私たちは、地域のハブ拠点としての役割を果たしながら、地域の方々とともに、地域の自然・歴史・文化・産業などの資源を活用した、持続可能な地域社会の構築——ローカルSDGsに取り組んでいきたいと考えています。

今回は、谷口印刷株式会社さんをお願いします。

株式会社ロハス長浜

滋賀県長浜市余呉町中之郷 250

TEL : 0749-86-3821

URL : <https://lohas-nagahama.com>

今さら聞けない用語集

エシカル特集～「グリーン購入+エシカルキャンペーン」でよく問い合わせを受けた順です

【フェアトレード】

「公平・公正な貿易」を意味し、開発途上国の原料や製品を適正価格で継続的に購入することを通して途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」を指します。また、フェアトレード認証を取得している企業の多くは、生産者の自立だけでなく、環境保護にも取り組んでおり、生産方式がエコであることから、フェアトレード商品を買うことは、「環境と生産者、地球と人両方の未来を守る選択肢」であり、「人や社会を守る、“未来よし”な買い物」とも言えます。

【サステナブルファッション】

大量生産・大量消費・大量廃棄からの脱却のため、衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組みのことを指しています。例えば、古着やシェア・サブスク型レンタル等です。

潮流

「琵琶湖はほんにすごい!」琵琶湖八珍のすすめ

滋賀県 農政水産部 水産課

琵琶湖八珍（びわこはっちゃん）、という言葉をご存じですか？琵琶湖で漁獲される八種類の魚介類、ビワマス、コアユ、ハス、ホンモロコ、ニゴロブナ、スジエビ、ゴリ、イサザのことを指します。頭文字を組み合わせた、「ビワ・コ・ハ・ホン・ニ・ス・ゴ・イ（琵琶湖はほんにすごい!）」、と覚えてください。

琵琶湖八珍の魅力は、それぞれの魚が持つ個性と、季節ごとの味わいにあります。春にはほろ苦さが楽しめるコアユ、夏には世界中で琵琶湖にしかいない脂ののったビワマス、秋には上品な白身とやわらかな身質のホンモロコなど、旬を意識することで、よりおいしく味わうことができます。ニゴロブナを使ったふなずしは、琵琶湖ならではの発酵文化を今に伝える代表的な料理として知られています。

滋賀県内水面漁業振興計画（第3期）では、琵琶湖八珍の魅力をPRし、県内外での湖魚の消費拡大を目指すこととしています。県水産課が管理する琵琶湖八珍サイトでは、琵琶湖八珍を取り扱う飲食店様や販売店様を「琵琶湖八珍マイスター」として紹介していますので、外食や観光、お買い物の際にご活用下さい。また、家庭で作りやすいレシピや調理のポイントも掲載しています。天ぷらや佃煮、塩焼きなど、特別な技術がなくても楽しめる料理が多く、日々の食卓に取り入れやすいのも魅力です。

琵琶湖八珍を選ぶことは、地元の自然や漁業を応援する「地産地消」の実践にもつながります。地元で獲れた魚を地元で味わうことは、環境への負荷を抑え、琵琶湖の豊かな恵みを次世代へつなぐ一歩です。日常生活の中で琵琶湖八珍に目を向けることで、滋賀ならではの食文化と、湖と共に生きる暮らしを身近に感じてみてはいかがでしょうか。



琵琶湖八珍ホームページはこちらから介
<https://shigaquo.jp/hacchin/>



2024年度中にご寄付をいただいた団体

- びわ湖チャリティー 100km 歩行大会実行委員会

2025年度中にご寄付をいただいた団体・個人

- イオンベーカリー株式会社
- 中川 武司 氏
- 宮永 健太郎 氏

ありがとうございました。
 大切に使用させていただきます。



現会員数：418 団体 [企業 346、行政 22、団体 50] (2026年2月1日現在)



会員発工コ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

～プラスチックごみ削減に～ 「紙製クリアファイル」

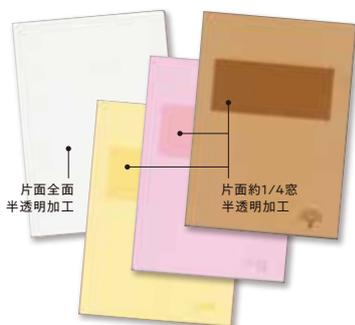
谷口印刷株式会社

紙資源としてリサイクルでき、脱プラスチックの取り組みとなる「紙製ファイル」はいかがでしょうか。紙なのでカーボンニュートラルになります。

鉛筆やボールペンで書き込むことができ、不要になればそのままシュレッダーでき、資源ごみとしてリサイクルしていただけます。

●仕様：A4サイズ 《小ロットカラー印刷可》

- ・片面全面半透明
ホワイト
- ・片面1/4半透明
レモン色
さくら色
未晒クラフト



全4種類

〈お問合せ〉谷口印刷株式会社



〒529-0241 滋賀県長浜市高月町高月618-1
TEL：0749-85-2385
E-mail: info@taniguchi-printing.com
URL: https://www.taniguchi-printing.com

電動車いす 「セニアカー ET4D」

株式会社ヤサカ

セニアカーは歩行者扱いで歩道を走行でき、運転免許は不要です。家庭の電源で充電可能で、連続走行距離は条件にもよりますが約33kmです。

一回の電気充電で生活範囲の移動が十分でき、モーターによる駆動走行で排気ガスも出ません。ノーパンクタイヤ装着で長距離外出も安心メンテナンスも殆ど不要です。環境にも負荷が少ない上に高齢者の外出支援となり、生活範囲が広がります。

- 希望小売価格：
410,000円 (非課税)
- 発売元：
スズキ株式会社



〈お問合せ〉株式会社ヤサカ 担当者：犬飼



〒520-1611 滋賀県高島市今津町弘川273-10
TEL：0740-22-2751
E-mail: h_inukai@daisuki-kaigo.com

エコペン
おススメ!

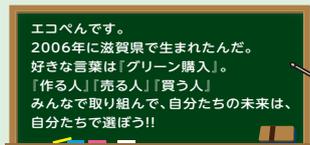
SGNロゴマーク・キャラクターの活用



SGNロゴマークやエコペン等のキャラクターをご活用ください。名刺・ホームページ・会社案内・サステナビリティレポート等、様々なシーンでご活用いただけます。



Shiga
Green-activity
Network
滋賀グリーン活動ネットワーク



※ご利用には申請が必要です。詳しくはSGNホームページ「会員ページ」をご覧ください。

SGNホームページ
「会員ページ」

編集後記

私は寒さにも暑さにも弱く、一旦身体が冷え始めるとなかなか体温が戻らないので、時折「本当に恒温動物か?」と自問自答しています。暑さに弱いとは言うものの、室温が少しでも(0.5度単位くらいで)下がるとすぐに冷え切って体調を崩すという親譲りで厄介な体質なので、羽織るものは必ず持ち歩いています。どうもストライクゾーンが極めて狭いようで困ります。最近は筋肉をつける(落とさない)べく、エアロバイクを漕ぎながら読書をする日々です。

2025年の夏は6月から長い間暑かったですね。ダブル高気圧なんて言葉を初めて聞きました。そして2026年はこれを書いている2月初旬現在、強烈寒波到来中で、日本海側や滋賀県も北部はかなりの積雪になっており、青森では災害派遣要請を行ったとのこと、本当に災害レベルだと感じます。そして太平洋側は少雨。ですが選挙で環境のことは語られていないと感じます。日本気象協会によれば、2026年は「猛暑・多雨・台風」に注意、だそうです。今こそ「グリーン経済」を作るべきではないでしょうか。(事務局：T)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586

Eメール:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:https://www.shigagpn.gr.jp/

